

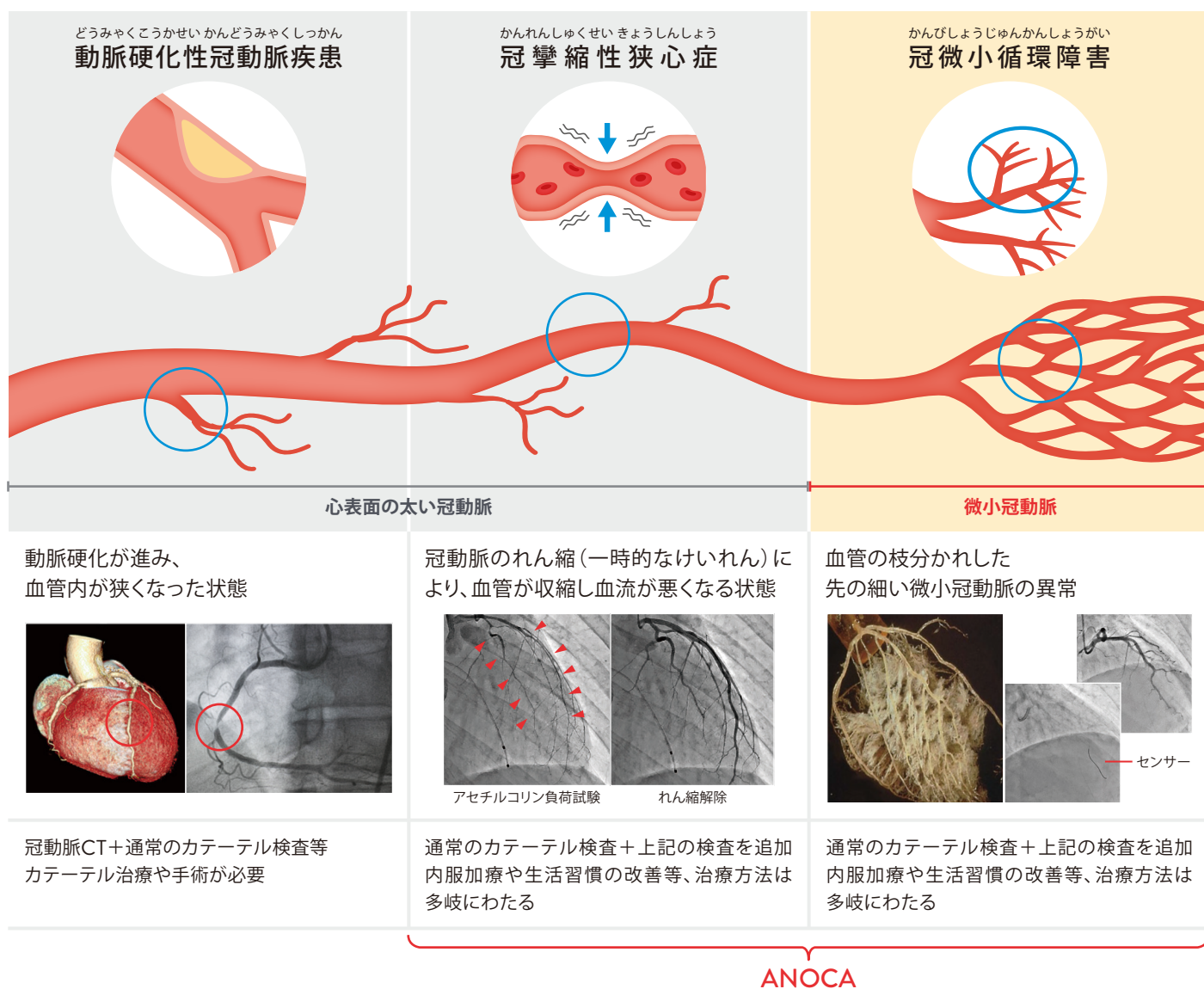
原因がわからない胸部周辺の不快感*

精査が必要な狭心症かもしれません

*例：胸部症状、息切れ、背部痛など

原因不明の症状でお悩みの方へ

胸部周辺の症状は、心臓や肺や消化器（食道や胃等）を代表に、さまざまな病気によって起こることが多い症状です。心臓による症状の原因の中には狭心症というものがあります。狭心症による症状とは、心筋（心臓の筋肉）の虚血（血によって運ばれる酸素が足りなくなる状態）により引き起こされ、胸部またはその周辺の領域に不快感を生じるものです。その原因として、冠動脈（心筋に酸素を送っている血管）に生じる疾患が大きく3つ考えられています。



これらの疾患は単独もしくは重複して罹患する場合があります。

冠攣縮性狭心症と冠微小循環障害は一見すると冠動脈に狭窄がないため、冠動脈CTや一般的なカテーテル検査での診断は困難です。

このように、動脈硬化が認められないにもかかわらず症状が現れる病態を、**非閉塞性冠動脈疾患を伴う狭心症（ANOCA: Angina with Non-Obstructive Coronary Artery）**と呼びます。

確定診断には、カテーテル検査の際に、通常の検査に加えて追加の検査が必要となる場合があります。

ANOCAは胸部症状だけではない。多種多様な症状で原因説明が困難

心臓は3本の太い冠動脈の先に、枝分かれした微小冠動脈が張り巡らされています。

心表面の冠動脈が詰まったり狭くなったりすると胸の痛みや圧迫感、肩の痛みなど胸の近くに不快感を覚えますが、冠攣縮を有する場合や、微小冠動脈に異常がある場合は、胸の痛みに限らず、呼吸困難感、吐き気、胃痛などの消化器症状、背部痛、顎やのど、耳の後部などへの放散痛、動悸など多様な症状が伴うことが多く、症状出現のきっかけも様々です。その持続時間は、数分ではなく数時間に及ぶこともあります。

狭心症診断のあれこれ

狭心症の診断には、カテーテル検査のほかに、以下の方法があります：

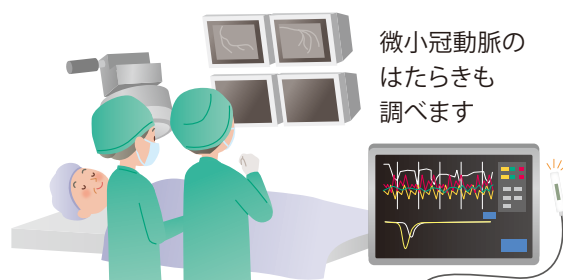
- ・ 外来での問診
- ・ CTや心筋シンチグラフィーなどの画像診断
- ・ 運動負荷心電図検査

これらの検査で狭心症の可能性を調べることはできますが、胸部症状の原因として冠攣縮性狭心症や冠微小循環障害の関与を否定をすることは困難です。カテーテル検査を行わずに冠攣縮性狭心症や冠微小循環障害の可能性に対して内服治療を始めることもできますが、確実な診断はできず、内服薬によっては中断も困難となります。

狭心症の確定もしくは**狭心症を確実に除外**するためには、微小冠動脈の検査も含めた包括的なカテーテル検査が必要です。

冠微小循環障害検査実施施設

検査実施施設は限られているため
最新の医療機関情報はこちらをご参照ください



専門医が、症状に基づいて最適な検査方法と治療計画を提供します

1. 原因不明の胸部症状の原因を精査

必要に応じてカテーテル診断に加えてより精密な検査を行います

2. 適切な治療法の選択

診断結果に基づき、最適な治療方法を考えます

上記から症状の改善と生活の質の向上を目指します



東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 循環器内科
板倉 良輔 先生 監修

This material is intended for use by healthcare professionals only. Information contained herein for DISTRIBUTION in Japan ONLY.
Illustrations are artist's representations only and should not be considered as engineering drawings or photographs. Photos on file at Abbott.

製造販売業者

アボットメディカルジャパン合同会社

本社：〒105-7115 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター

お問い合わせ：VASCULAR事業部

〒108-6304 東京都港区三田3-5-27 住友不動産東京三田サウスタワー 4階

www.cardiovascular.abbott/jp

©2025 Abbott. All rights reserved. (MAT-2502898 v1.0)

